

総評
「げんき！」
<評価の高い点>

1,「発達段階に応じた環境構成」

乳児保育園はワンフロアとなっている室内のため、年齢別に仕切って、発達段階に合わせた手作り玩具による環境構成をしています。

0歳児は、はいはい、つかまり立ち、伝え歩きなど、発育に応じて体を動かし、探索できる環境を確保しています。手の届く位置や目の高さに、つまむ、つかむ、たたく、引っばるなど手や指を使って遊ぶ手作り玩具を配置しています。また、音(カスタンネットなど)、色、手触り(布など)、持ちやすさなど感覚の発達が促されるようにしています。

1歳児は、興味を持った玩具等で自分なりに遊ぶようになるため、指先やままごとコーナー、ミニの電車や自動車などの玩具を整えています。

2歳児は、段ボールで作ったお家や電車、テーブル、椅子、ままごとなどを整え、友だちとイメージを持ち遊びが展開されるようにしています。

また、自我の芽生えとともに「自分のもの」という意識も明確になってくるため、一人ひとりの子どもが、手作りの自分用の人形を持たせています。手作り玩具の温かさが子どもに伝わり、遊びを豊かにしています。

2,「げんき！な乳児保育の存続」

近年は、育児休業制度の充実から乳児の預かり保育をする児童数が減少しました。乳児保育園は5歳までの通年保育ではなく、定員数も19名と少ないです。年度途中で定員を満たさなければ経営は厳しいものがあります。また、3歳以上からの転園は保護者から敬遠されがちなので、通年保育園と比較すると最初に選ばれる保育園としては不利です。これらにより、園は、将来にわたる乳児保育園としての存続は困難であると結論しました。

職員は開設時からの勤務者も多く、乳児を専門とする人材育成を継続的に行ってきました。キャリアを重ねた職員に対して、保育園を閉鎖して失業されるわけにはいかない、との強い思いが事業所にはありました。

在園する子どもと現在の職員のことを考えて、次年度には、社会福祉法人との吸収合併に応じる決断をしました。保育園「げんき！」の名称は残ります。これからも、げんき！な乳児が保育され成長します。

<質の向上のために求められる点>

1,「アセスメントを意識した記録と指導計画」

保育日誌は、子どもの様子と親子の関わりの欄を設けて、気になったことや印象に残ったこと、出来事を記録しています。しかし、個別の指導計画の目標やねらいに反映されていません。保育日誌は、子どもの姿を書くだけではなく、子どもの内面や状況の理解、保育士がどのような関りをしているかなどを記録することで、振り返りの視点となります。

子どもと保護者のニーズは、個人面談や連絡帳等で把握・記録するだけではなく、送迎時のコミュニケーションを通して共有したことなどを、保育日誌(親子の関わり欄)に記録し、考察をして個別の指導計画に生かしていくことが大切です。書類を増やすのではなく、一人ひとりの子どものアセスメントを意識した記録に基づき、個別指導計画を適切に作成することに期待します。

2,「保育実践を支える PDCA を」

初回の評価結果の改善提案を受け入れて、保育業務マニュアルを各種作成しました。業務全般のマニュアルとして幅広く作成されています。但し、目次を設けて項目別にするなどの整理が充分ではありません。保育の現場で活用しつつ、見直し・改定の年月日を振りながら、活きたマニュアルとなっていくことに期待します。

第三者評価とは、事業所の全体的な運営・経営と、保育実践との PDCA サイクルです。日々の保育実践を通して、中長期計画におけるビジョンを明確にし、単年度計画に反映させ、評価・見直しを継続させていくことに期待します。